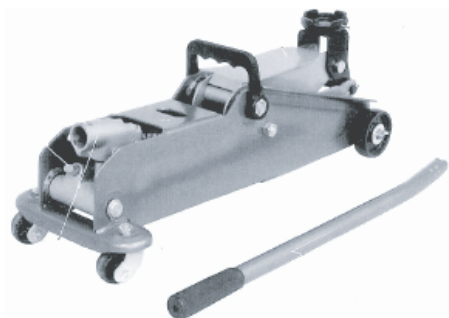


取扱説明書

油圧フロアージャッキ 10440482



安全上のご注意とお願い

この度は「油圧フロアージャッキ10440482」をお買い求めいただきありがとうございます。
本品を安全に正しくお使いいただくために、ご使用前に必ずこの取扱説明書を最後まで読み、
ご利用いただきますようお願い申し上げます。
尚、お読みになった後も、お使いになる方がいつでもご利用できる場所に大切に保管して下さい。
用途以外でのご使用、またこの取扱説明書に明記された内容を守らなかった場合に起きた事故・
故障・修理その他の不具合についての責任は一切負いかねますのでご了承下さい。

Made in China

1. 安全にお使いいただくために



危険

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、死亡または重傷を負う可能性が切迫して想定される内容を示しています。



警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、傷害を負う可能性が想定される内容および物的損傷の発生が想定される内容を示しています。



ご使用前の点検

- ☆ 下記項目を必ず確認してからご使用ください。
- ☆ ご使用になる度に、正常に作動するか必ず確認して下さい。
- ボディのゆがみ、錆び、亀裂、及び各ネジのゆるみ
- ハンドルと本体との接合部分の確認、及びシリンダーのオイルもれ
- ポイント位置確認、及び使用場所が平坦であるか



取り扱い上のご注意

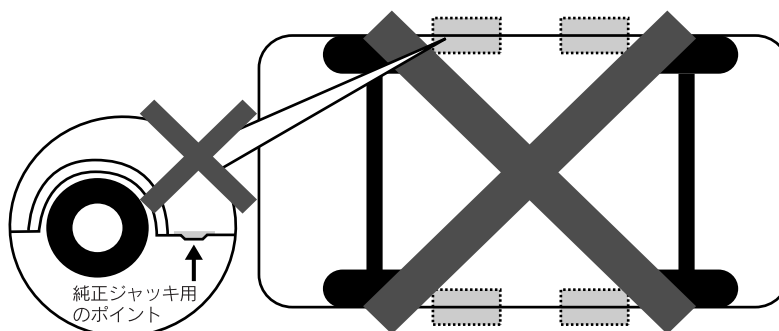
本品を使用することによるケガや重大な事故を未然に防ぎ、安全にお使いいただくために、下記の注意事項を必ずお守り下さい。

- 本品は自動車のタイヤ交換、タイヤチェーンの着脱や整備のためのものです。本来の用途以外で使用しないで下さい。又、本品を改造しないで下さい。
- 安全バルブ (DO NOT ADJUST) は、ジャッキアップが適正な荷重になるように出荷時に調整されていますので、絶対にさわらないで下さい。
- ジャッキを使用する際は、車体の下や周りに人や物などがいないことを確認してから作業を行ってください。又、ジャッキアップ中に車両の下に入らないで下さい。
- ジャッキを使用する前に、負荷のない状態でジャッキアップテストを行ってください。
- ジャッキに異常が見つかった場合 (オイルもれ、本体の変形等) は、使用を中止して下さい。そのまま使用すると重大な事故につながる恐れがあります。
- 最大荷重 (2t) を超える負荷で使用しないで下さい。
- リリースバルブをゆるめる際は、半回転 (180°) 以上回さないで下さい。故障の原因となります。
- 複数のジャッキを同時に使用しないで下さい。
- ジャッキアップした状態で車両から離れないで下さい。

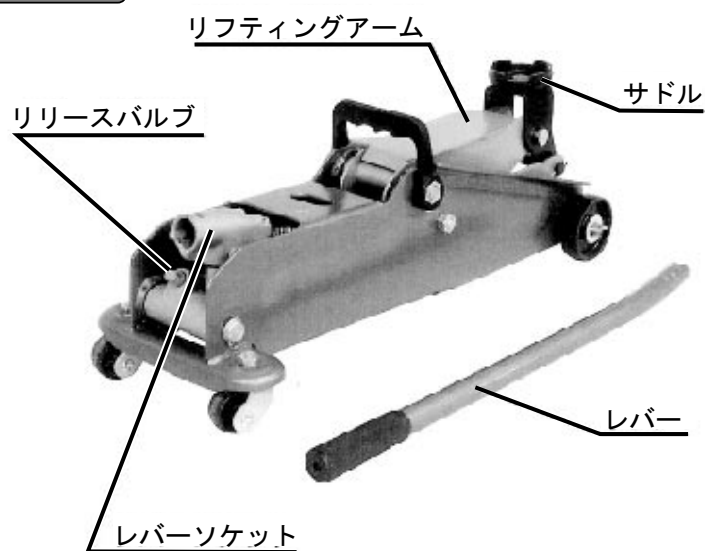
- ジャッキアップする際は、必ず平らで固い路面の上で行ってください。
- ジャッキアップする前に、必ず車のサイドブレーキを引き、ジャッキアップしない方のタイヤに輪止めをして下さい。
- ジャッキポイントは車種によって異なります。自動車に添付の取り扱い説明書、又は自動車メーカー・販売店等へ問い合わせし、必ず事前に確認して下さい。
- 車両指定のジャッキポイントでジャッキアップする場合、ジャッキポイントの形状とサドルの形状が合っているかを必ず確認して下さい。形状が合わない場合に無理にジャッキアップするとジャッキポイントが破損する恐れがあります。
- 安全の為、市販のジャッキスタンドで支えながら作業することをおすすめします。
- ジャッキを持ち運ぶ際や、ジャッキの上げ下げの際に、ジャッキの可動部分で指等をはさまないように注意してください。
- ジャッキアップする時以外は、レバーを本体から外しておいて下さい。
- ジャッキアップ中にジャッキポイントとサドルがずれることがありますので、時々確認しながら作業を行ってください。
- ジャッキを下げる際は、必ずゆっくりとレバーでリリースバルブをゆるめて下さい。速くゆるめると車両が急に降下して危険です。
- ジャッキアップする際は、その車両の指定ジャッキポイントを必ず確認して下さい。指定以外のポイントでジャッキアップすると、その部分が破損する恐れがあります。ジャッキポイントがわからない場合は、車の販売店や整備工場等で必ず事前に確認して下さい。

必ずジャッキポイントが適切な位置か確認してからジャッキアップして下さい。又、ジャッキポイントがわからない方は、使用前にカーディーラー及び整備工場で確認して下さい。

☆ 純正ジャッキ用のポイント(下図  部分)で本品を使用すると車両を破損させるおそれがあります。
このジャッキポイントでのご使用は、絶対にやめてください。



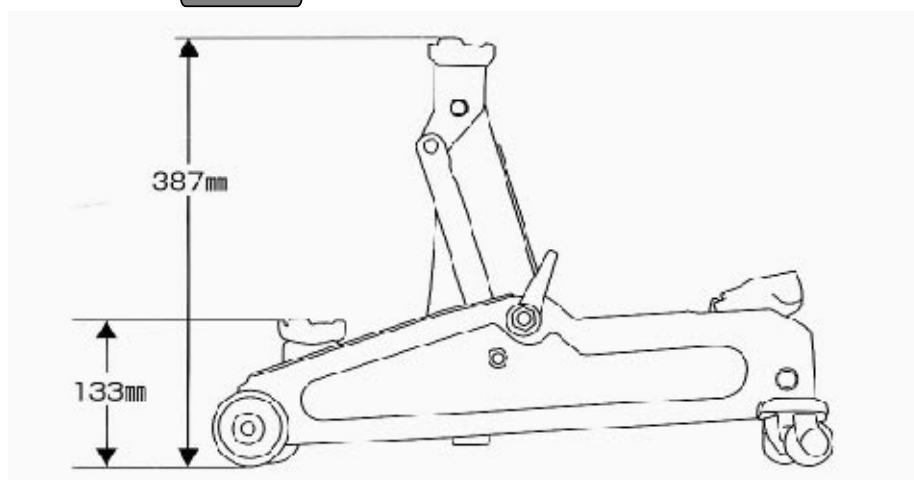
2. 各部の名称



3. 本製品の使用

最大耐荷重		2トン	サドル寸法		φ 60mm
適用車両		2トン以下	ストローク		254mm
寸法(W×H×D)		520×148×188mm	レバー	長さ	500mm
揚程	最低位	133mm		操作力	40kg
	最高位	387mm		レバー取付後全長	
使用温度範囲		-20℃～+60℃	作動油		油圧潤滑油
質量		10.5kg	油量		115cc

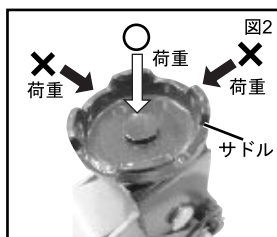
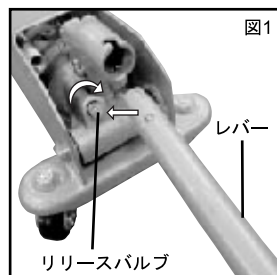
揚 程



4. ご使用方法

1 ジャッキを揚げる場合

- ① 平らで固い路面にジャッキを置き、車両のジャッキポイントの位置にサドルを合わせます。
- ② レバー先端をリリースバルブに差し込み、レバーを時計回り(右)に回して、リリースバルブをしっかりと締め付けて下さい。(図1)
- ③ レバーソケットにレバーを差し込み、上下に動かしてサドルをジャッキポイントの近くまで上げて、いったん停止します。
- ④ 荷重がサドルの中心にまっすぐかかることをよく確認します。(図2)
- ⑤ 確認ができたなら、再度ハンドルを上下に動かして車両をジャッキアップします。



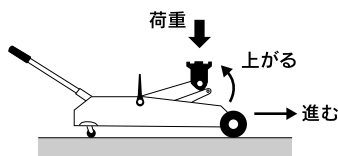
⚠ 警告

- ジャッキポイントは車種によって異なります、自動車に添付の取扱説明書や自動車メーカー・販売店への問い合わせにより、必ず事前に確認して下さい。
- 自動車メーカーの指定するジャッキポイント以外では、ジャッキアップしないで下さい。車体に変形したり荷重バランスの崩れにより重大な事故につながります。

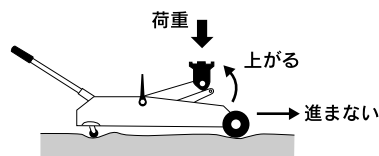
⚠ 危険

- 傾斜地や地面が軟弱な場所及び平坦でない場所やジャッキの車輪が容易に回らない場所では、使用しないで下さい。ジャッキが傾いたり、サドルが外れて自動車が落下し使用者が死亡したり負傷を負う危険があります。又、傾斜地ではジャッキアップ中に自動車が動きだして重大な事故になります。

- 強固な地面(可)

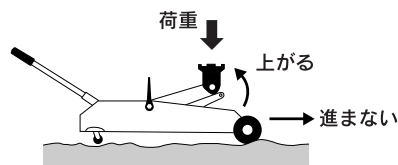
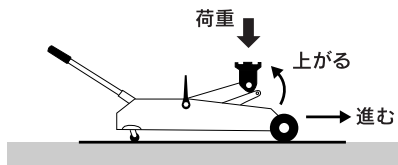


- 柔らかい地面はめり込んで進まない(不可)

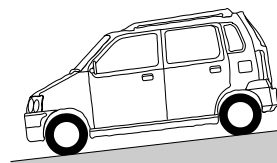
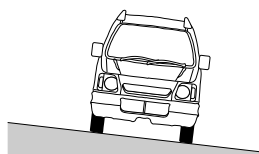
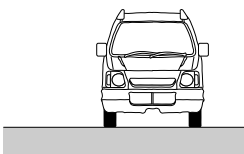


●鋼板等の強固な板を敷いた場合(可)

●凹凸な地面は前に進まない(不可)



●傾斜した場所や勾配のある道路では使用しないで下さい。



水平で強固な場所(可)

傾斜した場所(不可)

傾斜した場所(不可)

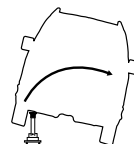
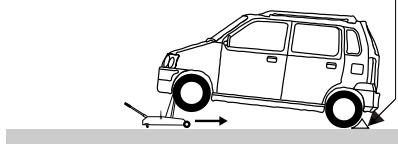
⚠ 危険

● サドルを上昇・下降させた時に、ジャッキが追従して移動することを確認してください。移動できないまま使用すると、サドルがジャッキポイントから外れ、自動車が落下し死亡事故や重傷を負う危険があります。



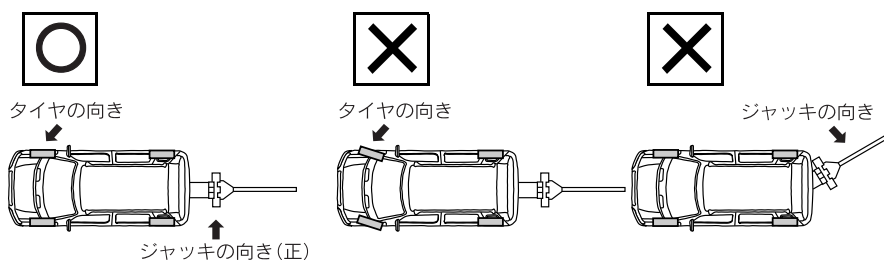
※図のようにジャッキ
(可) アップ反対側に車輪
止めをして下さい。

(不可) 負荷点が移動



⚠ 警告

- ジャッキアップの際は、車のタイヤをまっすぐの状態にして、ジャッキを車体に対してまっすぐに入れて下さい。ジャッキの向きが斜めになっている状態でジャッキアップした場合、サドルがジャッキポイントから外れ自動車落下し使用者が死亡したり重傷を負う危険があります。



- サドルを上昇させて、サドルが車体に当たった時点で一度停止させて、サドルが車体のジャッキポイントの正しい位置（荷重の中心がサドルの中央にかかる位置）にセットされている事を確認して下さい。セットする位置がずれていた場合、車体に変形したり、荷重バランスの崩れにより重大な事故につながります。
- 重い荷物や人を乗せたままジャッキアップしないで下さい。
- 自動車のエンジンをかけたまま使用しないで下さい。
- ジャッキが上昇しない場合や、ジャッキが下がってしまう場合は、リリースバルブがゆるんでいる可能性がありますので、リリースバルブにレバー先端を差し込んで、右に回してしっかりと締めて下さい。
- 変速ギヤは、オートマチック車の場合は「P」に、マニュアル車の場合は「ロー」または「バック」に入れて下さい。

2 一定の高さで停止する場合

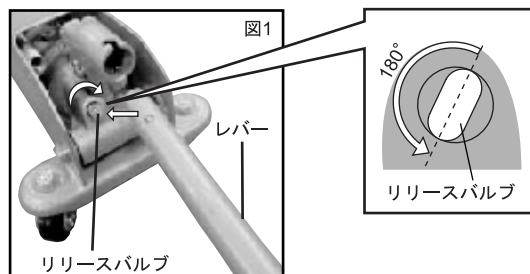
ハンドルの上下操作を停止すると、サドルが自動車を保持したままの状態になります。

⚠ 危険

- ジャッキアップした状態のままで車体の下には絶対入らないで下さい。車体の下に入って作業する場合は必ず十分な耐荷重のあるジャッキスタンドを使用して下さい。
- ジャッキアップした状態のままで自動車を移動させたり、車体に衝撃を与えないで下さい。

3 ジャッキを下げる場合

ハンドルをリリースバルブに差し込み、反時計方向(左側)に、ゆっくり回しサドルを下降させて下さい、その際、180°(半回転)以上回さないで下さい。(図3)



⚠ 危険

ハンドルを急に回さないで下さい。サドルが急激に降りると自動車落下し、使用者が死亡したり重傷を負う恐れがあります。

⚠ 注意

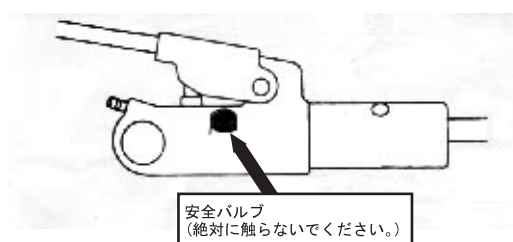
故障の原因になりますので、リリースバルブは3回以上回さないで下さい。

4 作業終了

- 作業が終了したらサドル、リフティングアーム、フレーム等に付着した泥、オイル、グリス、水滴等の汚れをきれいに拭き取ってください。

5. 安全バルブ(DO NOT ADJUST)について

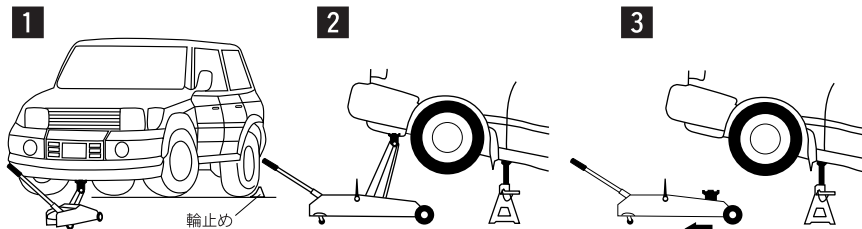
- フロアージャッキには、安全バルブが付いていますが、このバルブはジャッキアップが適正な荷重になるように出荷時に調整されていますので、絶対に触らないでください。(ジャッキに適正荷重以上の負荷がかかった場合、作動しないようになっていきます。)



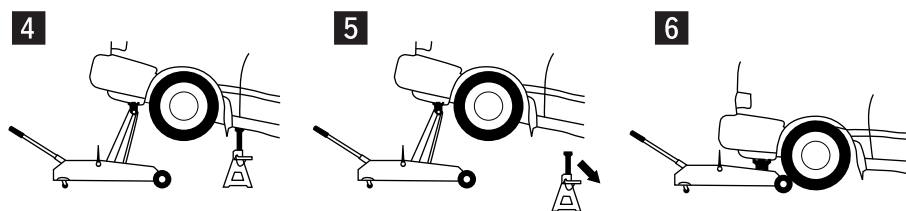
⚠ 注意

- 本製品をご使用の際は、必ず2トン以下の車両にてご使用ください。
- 車両をフロアージャッキで揚げたまま触らないでください。
- フロアージャッキで揚げたまま車両の下に、絶対に潜らないでください。大変危険です。
- 車両の下で作業をする場合は、必ずジャッキスタンドを使用してください。
- 本製品は、業務用には使用しないでください。
- フロアージャッキを下げる際は、バルブを必ずゆっくりと回し、緩めてください。(急に回しますと、車両がいきなり下がりますので、危険です。十分ご注意ください。)

6. ジャッキアップ手順



- ① ジャッキを使用してセンターでジャッキアップします。
● ジャッキポイントは必ず確認して下さい。又、必ず輪止めをして下さい。
- ② ジャッキスタンドをジャッキポイントに高さを合わせて置きます。
- ③ ジャッキを上げて移動させます。
● 車体がジャッキスタンドで完全に固定されていることを確認後作業します。



- ④ 作業が終わりましたらジャッキで車体を再度ジャッキアップします。
- ⑤ ジャッキスタンドを取り除きます。
- ⑥ ジャッキをゆっくり下げます。

7. 保守・メンテナンス

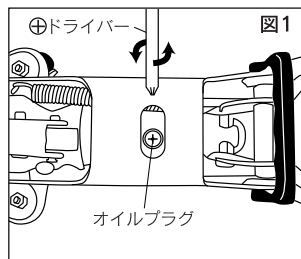
1 ジャッキのお手入れ

- ① ジャッキを使用しない時は、錆などによる動作不良防止の為、リフティングアーム及びレバーソケットを最下部まで下げておいて下さい。
- ② ジャッキは常に清潔にして、可動部分に時々注油してください。
- ③ オイルの量が減少した場合、下記ジャッキオイルの補充及び交換参照の上、適量を補充して下さい。
- ④ 頻繁にご使用になる場合、良好な状態を保つ為、約1年毎にジャッキオイルを交換して下さい。(P9のジャッキオイルの補充及び交換参照)
- ⑤ 錆や動作不良などの故障の原因になりますので、雨や雪の当たるところ及び湿気の多いところには保管しないで下さい。

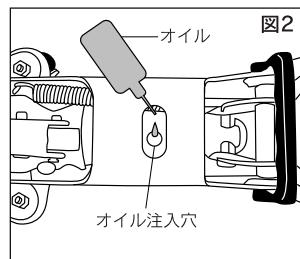
2 ジャッキオイルの補充及び交換

- ① オイルプラグをプラスドライバーなどで外してリリースバルブをゆるめます。
(図1)
- ② オイルプラグの穴を下に向けて、古いオイルを排出して下さい。
- ③ ほぼ完全に排出した後にジャッキオイル(別売)をオイルプラグの穴から
入れすぎに注意して少量ずつ注入してください。又、オイル注入中にゴミが
入らないように注意してください。(図2)
- ④ ジャッキオイルの適正量は、リフティングアームを最下位まで下げた
状態でオイルプラグの穴から油面まで約10mmの空間を設けた位置です。
- ⑤ ジャッキが途中までしか上がらないときは、ジャッキオイルの不足、又は、
エア抜きが完全に出来ていない事が考えられますのでジャッキオイル
を適正な量まで補充して、エア抜きして下さい。
- ⑥ 補充作業が終了しましたら、オイルプラグを元の状態に戻して下さい。

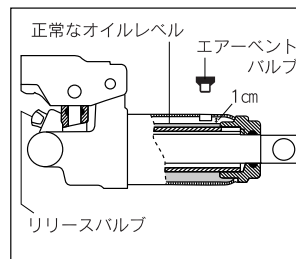
【ジャッキオイルの補充方法】



リフティングアームを最降下させ
カバーを開き、平らな場所で
オイルプラグを外してください。

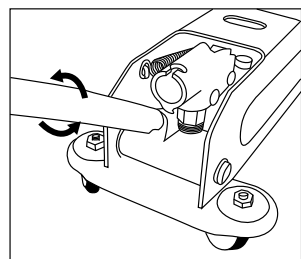


油圧用オイルを少量ずつ注入
して下さい。オイルの補充が
終わりましたらエア抜きを
行ってください。

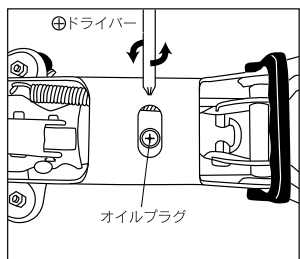


オイルをバルブの穴より1cm
くらいまで補充して下さい。

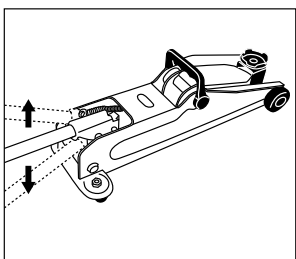
【エア抜き方法】



レバーを左に回してリリース
バルブをゆるめて下さい。
(2〜3回転)



オイルプラグを少しゆるめて
下さい。



レバーをソケットに差し込、上下
いっぱいポンプ操作して下さい。
(すばやく5〜6回)その後、
オイルプラグをしっかりと締め、
カバーを閉じてください。

- 正常に作動しない時は、2～3回くりかえし行ってください。

注意

- 火気のある場所やその近くでオイル交換及び補充をしないで下さい。
- エンジンオイルやその他のオイルは粘度等が違うため作動不良の原因となりますので絶対に使用しないで下さい。必ずジャッキ専用オイルを使用して下さい。
作動油：油圧潤滑油（粘度：ISO 32 第4石油類危険等級Ⅲをお薦めします）
- ジャッキオイルを補充する際にオイルタンク一杯にジャッキオイルを入れるとジャッキが作動しません。必ずリフティングアームを最下位に下げた状態でオイルプラグの穴から油面まで約10mmの空間を設けて下さい。

7. 故障と処置

故障かなと思われる前に、もう一度取扱説明書をよくお読みになり、下記の点検をしてください。それでも、状態に変わりがない場合は、当社へご相談ください。

症状	原因	対策
適正負荷でジャッキアップしない	オイル不足	オイル補充
	リリースバルブ締め忘れ	リリースバルブを確実に締める
	油圧ユニットの故障	当社へご相談ください
ジャッキが上で停止しない (自然に下降する)	オイル不足	オイル補充
	オイル漏れ	当社へご相談ください
	リリースバルブ締め忘れ	リリースバルブを確実に締める
ジャッキが最高位まで揚がらない	オイル不足	オイル補充
	油圧ユニットに空気混入	空気抜きをする
ジャッキが最下位まで下がらない	しゅう動各部の錆び	潤滑剤等で動部へ注油
	リターンスプリングの錆び、へたり	リターンスプリングの交換
	油圧ユニットに空気混入	空気抜きをする

販売元：株式会社MonotaRO

<http://www.monotaro.com>

お問い合わせ先：0120-443-509

(土日・祝日を除く9:00～18:00)